

# サントス市姉妹都市提携40周年記念公式訪問団報告書

長崎市議会議員 中村 照夫  
 長崎市議会議員 西田 みのぶ  
 長崎市議会議員 野口 達也  
 長崎市議会議員 吉原 孝

## 訪問の目的

サントス市との姉妹都市提携40周年を迎えることを記念して、公式訪問団を派遣し、これまでの友好関係の歴史を振り返るとともに、今後さらなる相互交流を再確認し合い、相互理解や国際親善を推進します。

また、ブラジル長崎県人会が創立50周年を迎えることから、長崎県親善訪問団とともに、現地での記念式典等に参加し、今後の関係強化と交流促進につなげます。

以下、その概要についてご報告いたします。

**訪問期間** 平成24年8月26日（日）～9月5日（水）（11日間）

**訪問都市** ブラジル連邦共和国サンパウロ州 サントス市、サンパウロ市

## 日 程

月 日（曜）	発着地／滞在地名	視 察 地	摘 要
8月 26日（日）	長崎市役所 発 長崎空港 発 羽田空港 着 成田空港 発	機内泊	長崎市役所西側広場において 結団式  パリ（フランス）経由で サンパウロへ
27日（月）	パリ 着  パリ 発 サンパウロ 着		パリ到着後乗り換え  ○ブラジル長崎県人会による 出迎え
28日（火）	サンパウロ 発 サントス 着	サントス市	○サントス市長との意見交換 ○姉妹都市提携40周年記念式典 ○金星クラブ主催昼食会 ○ブラジル長崎県人会・サントス 市主催原爆写真展オープニング ○ブラジル長崎県人会サントス 支部との夕食会

29日(水)	サントス滞在	サントス市	○サントスFCによる歓迎レセプション ○サントス市内視察 ○サントス日本人会訪問 ○サントスFCとの親善試合観戦
30日(木)	サントス滞在	サントス市	○サントスFCとの親善試合観戦
31日(金)	サントス 発 サンパウロ 着	サンパウロ市	○サンパウロ州議会訪問 ○ヤクルト主催昼食会 ○日系人先没者慰霊碑参拝 ○サンパウロ日本総領事館訪問 ○サンパウロ日本総領事館主催歓迎夕食会
9月 1日(土)	サンパウロ滞在	サンパウロ市	○長崎県海外技術研修員経験者との懇談会 ○ブラジル長崎県人会との懇談会 ○ブラジル長崎県人会主催歓迎夕食会
2日(日)	サンパウロ滞在	サンパウロ市	○ブラジル長崎県人会創立50周年記念式典・祝賀会 ○長崎県知事主催返礼夕食会
3日(月)	サンパウロ滞在  サンパウロ 発	サンパウロ市	○サンパウロ市内視察  パリ(フランス)経由で成田へ
4日(火)	パリ 着  パリ 発	機内泊	パリ到着後、乗り換え
5日(水)	成田空港 着 羽田空港 発 長崎空港 着		解団式後解散

## 1 サントス市の概要

サントス市は、サンパウロ州にある人口約42万人の都市である。長崎と同時期の1543年に、ポルトガル船の来航により貿易港として開かれ、1908年(明治41年)にわが国第1回南米移住者781名も上陸した南米最大の貿易港を誇る港湾都市として知られている。

市内は、石畳の古い町並みとコーヒー取引市場、南米随一の観光都市であるリオ・デ・ジャネイロに次ぐ観光地として脚光を浴び、市の真上を南回帰線が通り、年中海水浴が楽しめるリゾート地である。

## 2 姉妹都市提携の経緯

長崎と同時期に、ポルトガル船の来航により貿易港として開かれた。長崎県出身の移住者やサンパウロ州議員からの申し入れにより、1972年（昭和47年）7月6日に姉妹都市提携を行った。

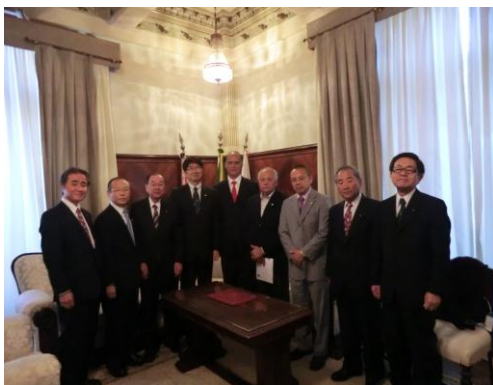
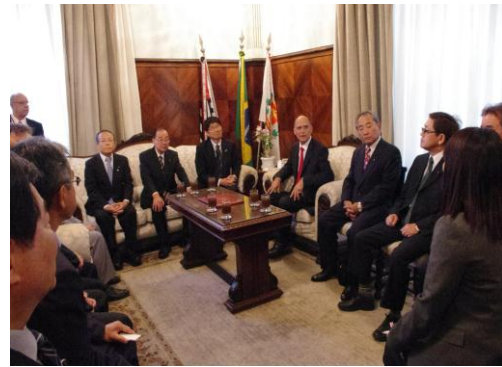
## 3 サントス市での主な行事内容

### （1）姉妹都市提携40周年記念行事（8月28日）

ジョアン・パウロ・タバレス・パパ サントス市長との意見交換を行った後、姉妹都市提携40周年記念式典が執り行われた。

サントス市長の挨拶の後、長崎、サントス両市の概要説明が行われた。長崎市については、人口、地形、歴史及び主な産業である水産業に係る内容について長崎市担当者から説明を行い、サントス市については、これからの都市開発についてサントス市秘書課長から説明があり、港湾都市としてコンテナ等の貨物取扱いが多いことに加えて、クルーズ客船の寄港も多いとのことで、港湾の整備計画図が示された。

その後、記念品の交換が行われ、サントス市からは路面電車の模型と記念プレートが贈呈され、長崎市からは両市がともに港町であることから姉妹都市提携40周年記念の大漁旗と、贈呈予定の路面電車と同型のハンドルキー及び写真を贈った。



### （2）ブラジル長崎県人会・サントス市主催原爆写真展オープニング（8月28日）

サントス市内にあるサーフィン博物館において開催されたオープニングに際して、田上市長は、姉妹都市提携は世界平和を実現するために行われており、こうした交流を続けていくことが大切であるとの挨拶を行い、パパ・サントス市長は、日本への留学生を送ることも検討したいと述べ、姉妹都市の結びつきをより強くしていくこと、この写真展の開催場所であるサーフィン博物館は、日系移民と関連が深いところである等の理由からこの場所を選んだこと、これからも世界平和を訴えていくことなどの挨拶を行った。

併せて、会場近辺にある日本移民ブラジル上陸記念碑、100周年記念オブジェを視察した。



### (3) サントス日本人会訪問 (8月29日)

サントス市内にあるサントス日本人会の施設を会長の案内のもと見学した。この建物は、サントス日本人会の会員の交流拠点として利用されているとともに、日本語の図書の設置やJICA（国際協力機構）青年海外協力隊による日本語教室の開催など、日系人の会員及びブラジル人に対して日本文化の継承を行っている。



### (4) サントスFCとの交流 (8月29日、30日)

今回の訪問団は、長崎市の少年サッカー団を派遣し、サントスFCジュニアユースとの交流を行うことで、青少年の国際性を育て、将来の長崎を担う若者の育成を図るとともに、今後の姉妹都市交流を促進させることも目的の一つとなっている。

#### ア 歓迎レセプション (8月29日)

長崎市の少年サッカー団の宿泊先への出迎えとして、サントスFCトップチームが使用するバスが用意され、歓迎レセプションの会場であるサントスFC本拠地の競技場へ向かった。



レセプションは競技場の1階において、ルイス・アルヴァロ・デ・オリヴェイラ・リベイロサントスFC会長、サントスFC U-15 監督・選手が参加し、友好的な雰囲気の中で開催された。

リベイロ・サントスFC会長から、姉妹都市である長崎市からのサッカー団を心から歓迎するとの挨拶があり、田上市長からも、厚いもてなしに対する感謝の言葉と、長崎市で毎年開催されているペレ杯争奪少年サッカー大会が現在も続いていること、今後の交流についても続けていきたいとの挨拶があった。

記念品交換では、サントスFCから、長崎市の訪問団へプレゼントが渡された。長崎市からもサントスFC会長をはじめ、主なスタッフやU-15 選手へ記念品を贈った。

レセプション終了後に、競技場に併設されているサントスFCのサッカー記念館を見学した。



#### イ サントスFC U-15 との親善試合観戦 (8月29日)

サントス市内にあるメニーノス・ダ・ヴィラ・トレーニングセンターで行われた親善試合を観戦した。試合開始前に1時間程度の調整時間をとっていたが、長崎とサントスFCの両ゴールキーパーと一緒に練習する光景も見られた。試合結果は4対0でサントスFC U-15 が勝利した。

#### ウ サントスFC U-14 との親善試合観戦 (8月30日)

サントス市内にあるレイ・ペレ・トレーニングセンターで行われた親善試合を観戦した。前日に対戦したU-15 は公式戦に近いこともあり、U-14 との対戦となった。試合結果は5対1でサントスFC U-14 が勝利した。

また、試合終了後に、サントスFCの計らいにより、トップチーム選手との記念撮影も行われた。



#### 4 サンパウロ市での主な行事内容

今回のブラジル訪問は、サントス市との姉妹都市提携 40 周年記念行事への出席とともに、ブラジル長崎県人会が創立 50 周年を迎えることから、中村法道長崎県知事及び渡辺敏勝長崎県議会議長をはじめとする長崎県親善訪問団とともに、同会の創立 50 周年記念式典等に参加し、今後の関係強化と交流促進につなげることを目的としている。

##### (1) サンパウロ州議会訪問 (8月31日)

応じたサンパウロ州議会のジョージ ハトー副議長からは、①平和問題に取り組んでいる長崎県に敬意を表している。②私たち日系人は最初にブラジルに来た人の苦勞を学んでおり、日系人が信頼されているのは、最初に来た人の苦勞があるからだと思う。③日本には技術面でいろいろと協力いただき感謝したい。等の話があった。

中村知事からは、①東日本大震災に対する支援への御礼 ②長崎は被爆地として世界に向けて情報発信していきたい。等の話があった。

田上市長からは、今回の訪問目的の一つに、平和市長会議の南米拠点をつくるため、サンパウロ市長にお願いに来ているので、ハトー副議長からも話を進めていただけたらと思う。との話があった。その後、記念品の交換及び州議会議場の視察を行った。



##### (2) ヤクルト主催歓迎昼食会 (8月31日)

サンパウロ州議会内のレストランにおいて、五島出身で 1966 年にブラジルに渡ったブラジルヤクルト商工株式会社の貞方賢彦会長（ブラジル長崎県人会顧問）及び天野一郎社長と昼食をとりながら懇談した。

ブラジルヤクルト商工株式会社は、1968 年にサンパウロ州で営業を開始し、日本と同様に訪問販売が行われている。

なお、五島出身である貞方氏は、1991 年 2 月に社長に、2010 年 4 月に会長に就任している。





### (3) 日系人先没者慰霊碑参拝・献花等 (8月31日)

サンパウロ市内のイビラプエラ公園内にある日系人先没者慰霊碑を参拝した。この碑は、日本からブラジルへ移民し、開拓途上で悲願を果たせずに亡くなった先没者を慰霊するため、ブラジル日本都道府県人会連合会により1975年に建立されたものである。

また、同公園内にある日本庭園も併せて視察した。



### (4) サンパウロ日本国総領事館訪問及び歓迎夕食会 (8月31日)

サンパウロ市内にあるサンパウロ日本国総領事館を訪問した。応対した小林雅彦主席領事からはブラジル経済及びサンパウロの概要について説明があった。主な内容は次のとおりである。

- ・日本からブラジルへは1930年代には年間2万人、戦前、戦後をあわせて25万人が移住し、日系人は150万人にのぼる。
- ・ブラジルは親日国である。
- ・ブラジル人はすぐ物を買う傾向にあり、物価は高い。
- ・ブラジルは1998年にNPT（核不拡散条約）、CTBT（包括的核実験禁止条約）に加盟し、核兵器を放棄している。
- ・電力は不足しており、国土も広いので再生可能なエネルギーの潜在性は高い。

総領事館訪問後に、サンパウロ市内のレストランに場所を移して、サンパウロ日本国総領事主催による歓迎夕食会が行われた。



### (5) 長崎県海外技術研修員経験者との懇談会 (9月1日)

サンパウロ市内にある北海道協会交流センターにおいて、長崎県海外技術研修経験者との懇談会が行われ、ブラジル側からは、ブラジル長崎県人会の川添博会長をはじめ、サンパウロ州教育局、研修経験者約15名が出席した。

懇談会で、ブラジル長崎県人会の川添会長は、①ブラジルは人種のもつて、それぞれの文化を尊重すべきであり、日本の文化も取り入れてほしいと考えている。②県人会における平和活動は重要であり、若い会員への継承が必要であることから、若い会員にも日本の皆さんと交流してほしいと思っている。等の挨拶があった。

これに対して、中村知事からは、①長崎県で研修を受けられた皆さんはかけがえのない存在であり、それぞれの分野で活躍いただいていることと思う。②長崎県の発展を目指す場合、海外との交流は不可欠であり、ブラジルが南米の中核としての役割を担っていることから、南米戦略を研究していきたい。等の話があり、田上市長からは、①ブラジルは日本からは一番遠い国だが心の距離は近いと思う。②原爆の日に併せて、県人会と被爆者協会でもミサをしていただき、御礼申し上げる。等の話があった。

研修経験者からは、長崎での研修を通して視野が広がったことや、日本の子どもにもブラジルを経験してほしい等の話があった。

また、サンパウロ教育局からは、サンパウロ州の学校と長崎との学校との交流についての提案があり、長崎県市とも協力をしていくことを確認した。



#### (6) ブラジル長崎県人会との懇談会（9月1日）

サンパウロ市内にある北海道協会交流センターにおいて、ブラジル長崎県人会との懇談会が行われ、ブラジル側からは、ブラジル長崎県人会の川添会長ほか、ブラジル日本都道府県人会連合会をはじめ、パラグアイ長崎県人会、アルゼンチン長崎県人会からも出席があった。

中村知事からは、先輩方が築いてこられた絆を大切に、大きくして、次の世代に受け渡していきたいとの挨拶があり、田上市長からは、長崎市とサントス市との交流に対する県人会の支援についての御礼等の挨拶があった。

懇談の中で、ブラジル長崎県人会から、長崎県の海外技術研修員の受け入れについての要望や、2014年の長崎国体に併せて、県人会からも参加したいとの話があった。

また、経済交流として、毎年7月にブラジル日本都道府県人会連合会の主催で日本まつり（フェスティバル・ド・ジャポン）が開催されるので、長崎にも出展してほしいとの要望及びブラジルに興味がある企業について、長崎県に情報提供してほしいとの要望があった。

#### (7) ブラジル長崎県人会主催歓迎夕食会（9月1日）

サンパウロ市内のレストランにおいて、ブラジル長崎県人会主催の歓迎夕食会が行われ、ブラジル側からは、川添会長ほか約30名の参加があった。

夕食会では、ブラジルのバーベキュー料理であるシェラスコ（鉄串に肉を刺し、炭火でじっくり焼いた後、目の前で切ってくれる。）をいただきながら、県人会の皆さんと親睦を深めた。



## (8) ブラジル長崎県人会創立 50 周年記念式典等 (9 月 2 日)

サンパウロ市内にある北海道交流センターにおいて、ブラジル長崎県人会創立 50 周年記念式典が執り行われた。(総勢約 200 名が出席)

ブラジル長崎県人会は、1962 年 4 月の創立以来、長崎県出身及び長崎県にゆかりのある日系人の親睦を深めるとともに、平和を推進する事業を行っている。

主催者挨拶で、ブラジル長崎県人会の川添会長は、これまでの県人会の活動を振り返るとともに、県人会にとって平和は大きな命題であり、長崎を最後の被爆地にすべく、被爆者協会とともにサントスでの原爆展やレジストロでの灯ろう流しに取り組んだことなどが紹介され、今回の式典を機に、長崎県との交流を深め、様々な団体との関係構築を図りたいとの挨拶があった。

これに対して、田上市長は祝辞の中で、県人会に対して、長崎の伝統芸能である龍踊りで使う龍の頭を寄贈することになったことなどを報告した。

記念式典に引き続き、祝賀会が開催され、今後ますますの交流を祈念しながら、県人会の皆さんと懇談し、親睦を深めた。

また、祝賀アトラクションでは、長崎市が県人会に龍踊りで使う龍の頭を寄贈することから、県人会の皆さんに龍踊りを紹介するために、田上市長の提案で人間龍踊りを披露することになった。玉使いを田上市長、龍頭を渡辺県議会議員、龍衆を市議会議員、県職員が務め、吉原市議の解説と江口県議のドラに併せて披露したところ、会場からはアンコールの掛け声である「もってこい」の声も上がり、出席者の皆さんにはとても好評であった。

